

平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果

京都市立大枝中学校

先の4月21日に、本校3年生を対象に実施された「全国学力学習状況調査」についての分析結果がまとまりました。本調査は、国語・数学・理科の3教科のテストと同時に、ご家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力の関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果(国語・数学・理科)

国語(A・B)、数学(A・B)、理科ともに全国平均を上回っています。無回答率も全国平均と比べて低い水準になっています。1年生から実施されている学習確認プログラムの結果とも併せてみると、学年が上がるとともに、学習に前向き取り組もうとする姿勢が身につく、着実に学力を向上させていっていることがわかります。

国語科より

全体的によくできています。A・Bともに全国平均を上回っています。文脈に即して漢字を正しく読み書きする力や、語句の意味を理解して文脈の中で適切に使う力を問う設問の正答率はかなり高く、『言語についての知識・理解・技能』が定着していると思われます。

『話す・聞く能力』では、聞き手を意識し、相手や状況に応じて話す工夫をする姿勢が伺えます。4人組やコの字の座席などの環境での学習が、少なからず成果をあげていると思われる。

また、文脈の要旨を捉える『読む能力』は正答率が高いですが、その文章を踏まえ根拠を明確にして自分の意見を書く設問の正答率は、若干低かったです。『書く能力』の向上のために、目的に応じた文章を書く機会を増やすように心がけましょう。

理科より

全体的には全国平均を少し上回りました。理科の学習意欲に関しても比較的ポイントが高く、日常生活に活用できるように考えている生徒が多いようです。

知識を問う問題には少し課題があるようです。具体的には、塩化ナトリウムの化学式や音の波形の特徴、上昇気流と雲のでき方の関係、でんぷんが消化された時の最終産物などの正答率が低かったです。これらの問題は短答式や記述式の回答が多く、無回答の率も比較的高くなっています。

知識を「活用」することはできているので、その土台となる知識を身につけた上で学習に取りかかりましょう。重要語句を自分の言葉で説明できるようになりましょう。

数学科より

全体的によくできています。特に、活用力を問うB問題では、正答率が全国平均と比べて、かなり高かったです。

具体的な設問でいうと、一次関数の表から x と y の関係を式で表したり、与えられた比例のグラフから x の変域に対応する y の変域を求めたりするような関数の領域ではとくに正答率が高く、学習が定着しているのがわかります。

ただ、与えられた資料から中央値を求めたり、度数分布表を完成させたりする資料の活用の領域では、課題があるように感じます。この領域は、まず基本的な事項の意味を理解することが大切です。きちんと復習をしておきましょう。また、与えられた情報をもとに道筋をつけて事象を説明していくような数学的思考方を必要とする問題には、これからも前向きに取り組んでいきましょう。

生徒質問用紙から

「自分にはよいところがあると思うか」という質問項目について、特に当てはまると答えている生徒が多かったです。今後も生徒一人ひとりの違いや良さを大切にして、学校生活を送らせたいです。一方、失敗を恐れず挑戦してやり遂げると回答した生徒が若干少なく、この点を改善していくことが、次へのステップアップにつながると感じます。

学習については、総じてただやらされているままではなく、自分で計画したり工夫したりして、よい方法について考えながら取り組んでいる姿がわかります。ただ、学習時間については、非常に多い人の割合が全国平均と比べて高い中、全くしていない人の割合も同じく高いことが気になります。